

平成 28 年度事業報告

平成 28 年度は、一般社団法人になり 4 年目であった。

4 月からの調剤報酬改定と薬価改定があり、薬剤師にとっては「かかりつけ薬剤師」の定義がなされ、本来の薬剤師業務が求められた一年であった。

「休日・夜間院外処方せん応需事業」については、インフルエンザの流行が例年通り 12 月半ばから始まったが、なかなか終息せず 3 月半ばまで患者さんが多かった。平成 27 年度より受託した中条地区休日診療所の調剤業務は順調に行われた。

本会が継続運営している FAX コーナーについては、設置している全病院で通過件数が減った為通過単価が上がった。今年度はあがの市民病院のエニファーマシーが老朽化したため買い替えをおこなった。

支援センター薬局については、昨年度に比べて処方せん枚数が約 700 枚減り、収入も約 4,000 万円減った。しかし、ジェネリックが多くなったことから仕入れも約 4,100 万円減った。また、職員の退職なども重なり人件費が減ったことから収支においては大幅にプラスとなった。

不動産在庫医薬品売買支援事業については、昨年度より会員薬局の利用が減ったが、収支は増えた。事務作業に係る人件費を出しても収支はとれた。

在宅医療への参加については、昨年度に続き他職種連携の動きが盛んになり、研修会やワークショップなどが行われた。ときネットは薬剤情報共有システムの稼働がやっと年度末に行われたが、本格的な稼働には至っていない。村上地区においても同様な動きがあり、参加薬局は多いのだが、本格的な稼働には至っていない。

今年度も薬学生実務実習は、1 期 5 名と 2 期に 3 名、3 期は 1 名の受け入れを行った。各期で 3 回ずつの集合研修を行い、実務実習指導薬剤師同士の交流もはかった。

会費については、県薬の会費検討委員会がまだ結論を出しておらず、当会の会費検討委員会も開催はなかった。

平成 28 年 11 月に当会の運営費が足りなくなることが判明した。原因は 2 年続けてエニファーマシーを現金で購入したことにより、運営資金が足りなくなったことがわかった。理事会で図った結果銀行からの借入をすることになり、金額は 500 万円とし以前からの返済残の 1300 万円と合わせて、1800 万円の借り換えを行った。その結果、返済は 2 年伸びたが利子の軽減もできて、運営は順調になった。

[重点事業報告]

1. 「休日・夜間院外処方せん応需事業」は、インフルエンザの流行は、例年通りの 12 月半ばから始まり、爆発的な流行はなかったが 3 月末まで患者さんがいた。休日や土曜夜間は 3 月半ばまで薬剤師二人体制で対応した。処方せん応需枚数は年間約 190 枚増え、4 月の調剤報酬改定で下越薬剤師会支援センター薬局が基本調剤加算の算定が出来るようになったため収入は大幅に増えた。

今年度も処方せんは新発田地区救急診療所からのものだけとは限らず、他の医療機関

からのものも多く見受けられ、昨年度よりは応需医療機関数も増え、事業を行なうことにより地域の皆様のお役に立てていることが実感できた。

また、中条地区休日診療所薬剤師派遣事業は、事業を始めた平成27年度よりは、応需する処方せん枚数が増えており、診療所のスタッフからも信頼を寄せられるようになっている。

2. 下越薬剤師会支援センター薬局は、今年度も順調に業務を行なった。今年度は、4月の調剤報酬改定で基準調剤加算の算定が出来た為1枚当たりの技術料は増えたが、受付処方せん枚数が年間約700枚減ったことや、ジェネリック医薬品の割合が増えたことから収入も減り仕入れも減った。しかし、パートの薬剤師が体調の悪化で12月に退職した後補充が出来ず、人件費も減った為結果的には収入は増えた。
3. 不動産在庫医薬品の買取・譲渡」は、売買率の変更はなかった。昨年度より取扱い品目・医薬品数なども減少したが、収益は少し増えた。(4ページ参照)
4. 在宅医療の推進は、他職種との顔の見える関係が築かれつつあり、研修会もたくさんあり参加も多かった。トキネットは年度末に薬剤情報共有システムの稼働できる状態になった。村上地区もほぼ同様の動きがあった。
5. 管内各地区の基幹病院に開設している有人FAXコーナーは、あがの市民病院で通過件数が激減し、他の病院でも通過件数が減った為、賦課金については1枚あたりの通過単価は上がった。(5ページ参照)
また、平成27年度の予算総会で承認されたあがの市民病院のエニファーマシーの買い替えを行った(5ページ参照)
6. 今年度の研修会は昨年度に比べ開催回数は減り、参加人数も少し減少した。研修シールをつけた研修会だけで年間36回、参加総人数はのべ635名であった。
7. 情報委員会は、下越薬剤会ホームページに基幹病院処方せん発行状況などを載せるなどの内容を検討し、全面的に改修した。
8. 薬学生実務実習委員会は8年目を迎える実務実習を円滑に行なう為、実務実習指導薬剤師交流会を開催した。またその際に要望があった集合研修も企画して、通算6回の集合研修を実施した。
9. 会費検討委員会は、新潟県薬剤師会の会費は変更がなかったことから、平成28年度も開催を見送った。

[項目的事業報告]

1 会 議

- ・ 総 会・・・平成 28 年 6 月 25 日 北辰館にて
平成 29 年 3 月 25 日 下越薬剤師会支援センター 2 階会議室にて
- ・ 理 事 会・・・平成 28 年 6 月 25 日、8 月 20 日、11 月 5 日、12 月 3 日
平成 29 年 2 月 18 日、3 月 25 日
- ・ 総務委員会・・・平成 28 年 4 月 20 日、8 月 18 日、11 月 10 日、12 月 1 日
平成 29 年 1 月 26 日、3 月 1 日

2 委 員 会 等

(1) 情報委員会……下越薬剤師会にて

今年度は、次の 3 点について活動した。

- ① 下越薬剤師会ホームページの回収を行った。
会員ページと下越薬剤師会のページを安価なさくらインターネットに移行した。
会員ページに基幹病院処方せん発行状況、学校薬剤師検査器具貸し出し状況他を掲示した。下越薬剤師会ホームページの内容を検討し、全面的に改修した。
- ② 各種の要望により B-Bick の改良を行った。
- ③ 薬価改定他、薬価収載、名称変更の B-Bick のデータの更新とメンテナンスを行った。

活動日・・・下記の計 10 回

平成 28 年 4 月 22 日、5 月 20 日、6 月 17 日、7 月 15 日、9 月 16 日、
11 月 11 日
平成 29 年 1 月 20 日、2 月 24 日、3 月 17 日

(2) 学術委員会学術研修会及びその他の研修会 (研修シール発行は 6-7 ページ参照)

- ・ 新発田地区・下越全体対象研修会・・・6 回と医師会 10 回参加
- その他の地区の研修会・共催の研修会・・・20 回
(6 ページ参照)